

所得水準と学歴の再生産

LH20-4084G 新垣 愛実

今は誰でも等しく義務教育を受けることができる上、親と同じ仕事を代々受け継がなくてもいい時代だ。一部の親たちは、学歴や教育のメリットを知っているから、子どもに学歴を取得させようと幼いうちから受験をさせるのだろう。

そこで仮説を2つ立てた。1つ目は、所得水準の高い家庭環境で育った人は同じ生活を子どもにさせたいと思い、子ども自身も親と同じ職業に就きたいと考えた結果、同じ学歴を得ることになり、学歴の再生産が行われているというものだ。2つ目は、なりたい職業が具体的にあった人ほど、学歴アスピレーションの働きが大きく、結果的に学歴が高くなりやすいのではないかという仮説だ。

本稿ではJGSS-2006「第6回生活と意識についての国際比較調査」のデータを使用し、分散分析、二項ロジスティック回帰分析、重回帰分析を用いて仮説の検証を試みている。

なりたかった職業の有無と本人最終学歴については、有意な差が見られなかった。これは、15歳時になりたかった職業が、必ずしも高学歴を必要としないものだったと考えられる。

なりたかった職業は親の職業であると答えた人と、15歳時の父親の職業威信スコアには相関があったため、所得の高い家庭で育つと親の職業を希望するという仮定を裏付ける結果となった。医者や弁護士などスコアの高い職業をしている親のもとで育つと、親と同じ職業を希望しやすいという結果が出ており、これは結果として学歴の再生産が行われるものと考えられる。同様に低学歴の再生産が行われている可能性もあるので、今後の課題となった。

高所得の家庭ではお金にゆとりがあるため、子どもに投資出来る費用が増えるので高学歴を得やすい。しかし低所得家庭の子、公立に進学した子どもでも大学進学ができなければ、機会の不平等であるため今後は教育の平等を目指すといいのではないか。